

「神戸防災のつどい2025」に衛生用品防災備蓄自動販売機を展示

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、1月19日（日）、神戸市は震災から学んだ多くの教訓を次世代に引き継ぎ、災害への備えに役立つイベント「神戸防災のつどい2025」を開催しました。

アース製薬は、神戸市との包括連携協定の一環として、神戸市立中央区文化センターで、「衛生用品防災備蓄自動販売機」を展示し、災害時においても重要なオーラルケアに関するフェーズフリーの啓発を行いました。この自動販売機は、災害発生時には衛生用品、飲料、食品を提供する備蓄庫として機能し、平常時には防災情報の提供媒体として活用されます。この取り組みを通じて、地域の防災力を高め、災害時に迅速な対応ができる社会への貢献を目指しています。（協力：大塚ウエルネスベンディング株式会社）



災害時には自販機内の飲料と食品、備蓄庫内の衛生用品を無償で提供することを説明しました。また、災害時においても重要なオーラルケアに関する展示と啓発を実施しました。



神戸市危機管理監の筒井勇雄様（中央）が展示ブースを訪れ、衛生用品防災備蓄自動販売機に関心を示されました。